

少年時代の
遠い記憶―

私の田舎には
昔から休園
している
小さな動物園が
ありました

地元の大人は
不気味がつて誰も
近寄りたがらない
場所なのですが―

好奇心が強かった私は
夏休みの夜中に
一人で
潜り込んだ事が
あるのです！

真夜中に人知れず
行われている！

狂気の宴を…

そこのー

調教中

見てしまったんです…





身も心も
蹂躪されて
屈服させられた
彼女達はー

彼女達も
激しく犯され続ける
うちにある変化が…

あ…あ
また…
中で大きくっ

はあ
あ…
すごい…

はあ

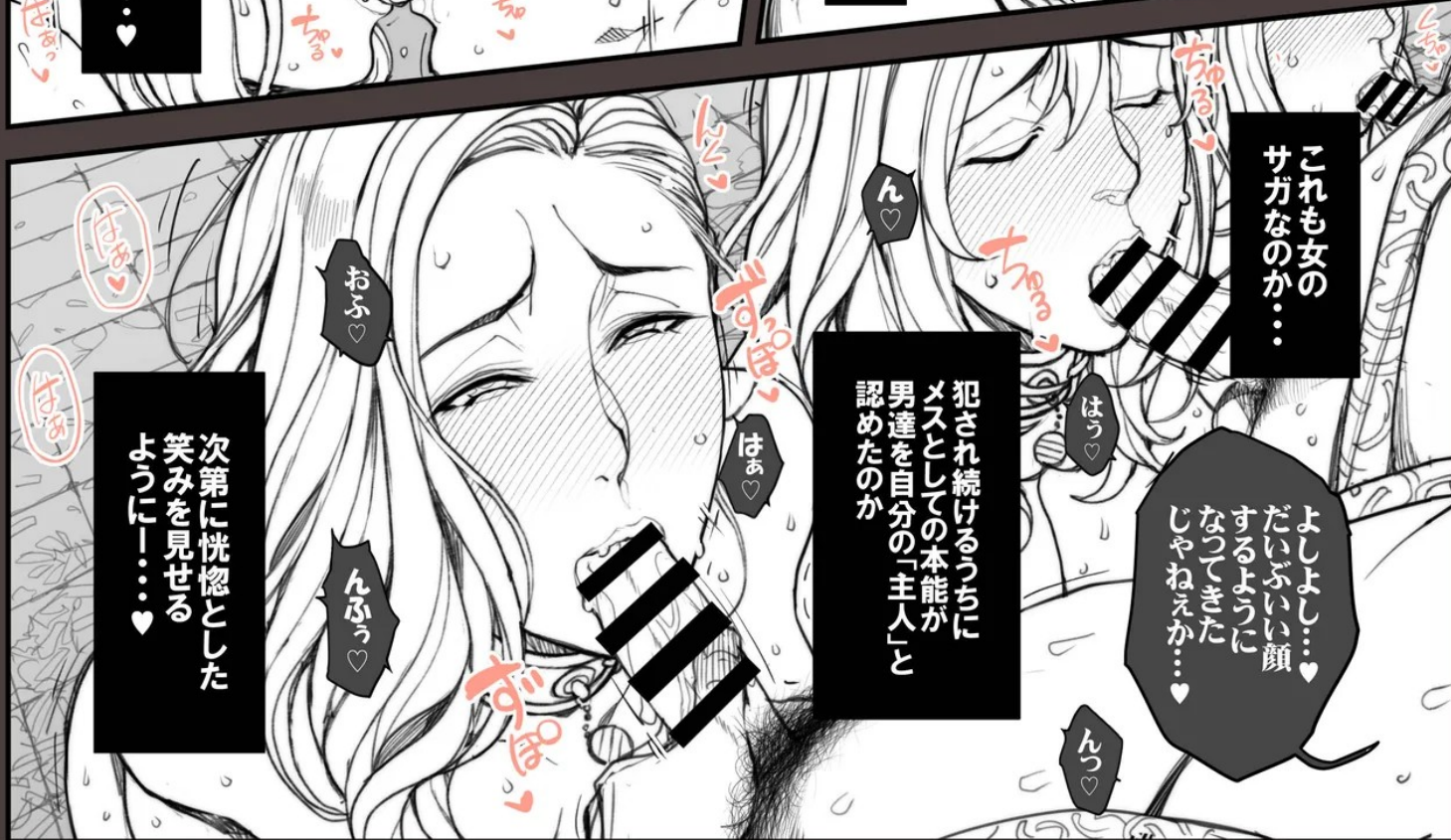


次第に

自分から…

仮面の
男達を

求める
ように…



これも女の
サガなのか…

よしよし…
だいぶいい顔
するようにな
つてきた
じゃねえか…

犯され続けるうちに
メスとしての本能が
男達を自分の「主人」と
認めたのか

次第に恍惚とした
笑みを見せる
ように…

女性達の変化とともに
館内の熱気もさらに高まっていき…

男と女の汗と精液の
混じり合った濃厚な香りと

喘ぎ声とも
うめき声とも
名状しがたい
唸り声が館内に
響き渡っていました

んあ♡
はあ♡
あつ♡
おっ♡
んあ♡

おお♡
はあふ♡

んんっ♡

いいか…?
お前達はただの
メスたち

こうして男に犯される
ために生まれた
生き物なんだぞっ♡

それをしつかり
自覚しろよう♡

はっ…
はっ…♡

ああ♡

おっ♡

あ♡

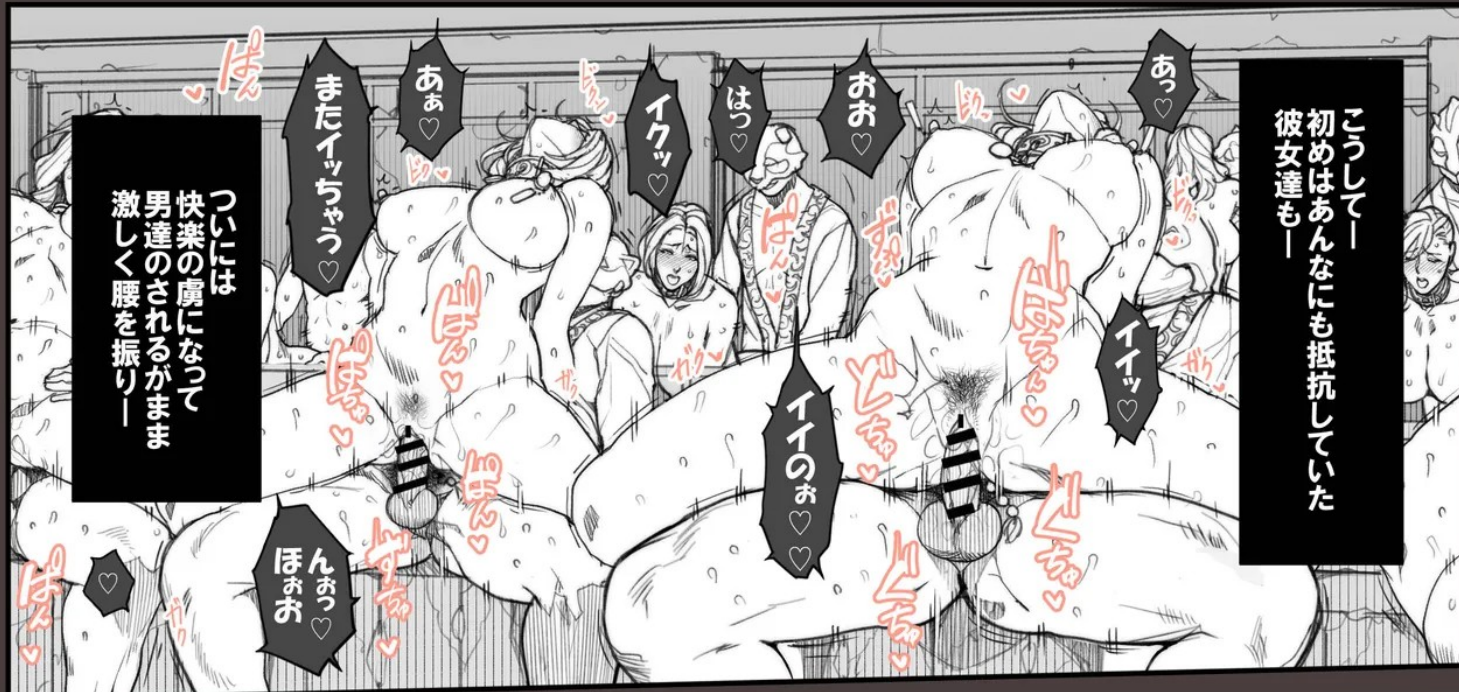
またっ♡

激しっ…♡

んんっ♡
んんっ♡

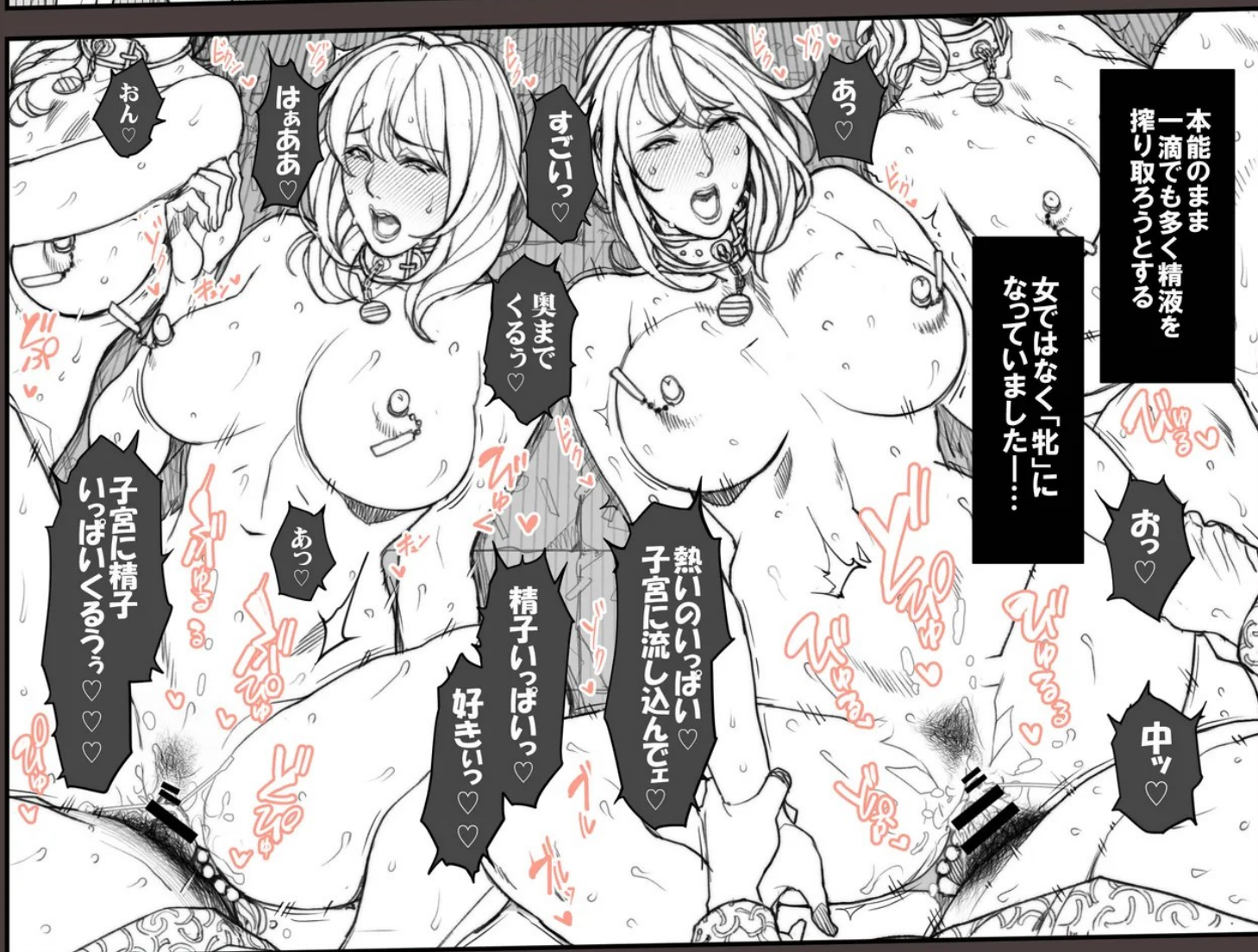
おんっ♡

自分の立場を
忘れないように
しつかり体に刻み込んで
やるからなっ♡



こうして—
初めはあんなにも抵抗していた
彼女達も—

ついには
快楽の虜になって
男達のされるがまま
激しく腰を振り—



本能のまま
一滴でも多く精液を
搾り取ろうとする

女ではなく「牝」に
なっていました！…

おっ
♡

中ッ
♡

熱いのいっぱい
子宮に流し込んで♡

精子いっぱい♡
好き♡

奥まで
くる♡

すごい♡

はぁぁ♡

おん♡

子宮に精子
いっぱいくる♡♡♡



その後も…
終わる事なく
絶頂し続ける
彼女らに
恐怖を覚えた私は—

怯えながら
急いで家に
逃げ帰った
のでした…

その後ー
あの動物園には
何度も忍び込み
ましたが

結局あの宴を
目撃出来たのは
一度だけでした…

あの夜の半年後
動物園も
取り壊しになり

この事は
誰にも話せずに

私も大人に
なりましたがー

今でも時々
思い出す
のです…

あの夏の夜の
おぞましく
淫らな宴は

あーっ
もっとお♡

もっ
ちようだいっ♡♡

もっ
とっばい突いてツ♡♡

あーっ
すーっ♡♡
イイのぉ♡♡

今もどこかで
行われているのだろうかー
と…

